

巻頭言

テントを担いで

竹内

今年は、コロナ禍の影響で山に行くことが出来ず、寂しい思いをしていた方が多かったと思いますが、その反面小屋泊まりを敬遠する人でテン場がソロテントで大賑わいであったそうです。衣食住をザックに詰め込み背中に重さを感じながら、ゆっくりと山を登って行き、薄いテントの生地を挟んで自然の中に溶け込み小屋泊と一味違う山を楽しめます。

今年のシルバーウィークに立山の雷鳥沢キャンプ場では、1000近くのテントが張られトイレに一時間以上待つ様子がニュースで報じられていました。今年に限らず傾向としてグループで来て各個人ごとに張るソロテントが多かったようです。

装備としては、テント、フライ、マット、シュラフ、調理道具など小屋泊まりと違う装備が必要になりザックも大型になります。何泊するかによって、食料そして大事なものは水、水場があるかないかによって水の量が大きく変わり、ザック重量はだんだん重くなり20K超えも十分にあります。これくらい重くなると、歩くスピードも遅くなり予定の幕営地に到着時間がずれ込み設営場所のスペースがない場合もあり、周到な計画が必要になります。計画の段階でなにを持っていけばいいのか、どうすれば軽くなるかがいつも悩むところです。これを誤ると痛い目に合う羽目になります。小屋泊ではあかの他人と布団を共にすることがありますが、テント泊の場合、テントの中は狭いですが、気の知れた者同士が食事や会話を楽しむ一番の時間です。天気が良ければ闇に浮かぶ星空を眺めて大自然に溶け込み時間です。

テント泊の魅力は、行動範囲が広くなり小屋以外のところでビバークが出来、自分なりの計画が立てられます。しかし国立公園ではテン場以外では設営が出来ないようになっていますので要注意です。

本来テント泊では、重い荷物の為、底が硬く重たい靴での歩行でしたが、近頃は装備も軽くなり登山靴がローカット、軽量の靴でテント泊の人も見かけます

ザックの重さを感じながら、もくもくと歩きテン場に到着して設営する、雨や風でテントが揺れて自然のなかで非日常を体験することで、心に残る山旅が魅力の一つです

なんといっても、リーズナブルです。小屋泊ですと一万円前後しますが、テント使用料は一人千円前後、食料に多少かかりますが、食材も重さ大きさや日持ちを考えての食事、朝などは短時間で食事を終えてテントを撤収して行動するので朝は忙しいです。

計画によって違いがありますが4、5、6と言われ4時に起き5時に食事6時に出発と言われ朝がポイントです。行動時間に余裕をもって次の幕営地に向かってのスタートです。

心が弾み、テン場からテン場へとつながり、快い疲労感と充実感は十二分に味わえます。

この頃は、ソロの人が多くなってきましたがリスクも高くテン場のスペースにも限りあります。やはりテント泊はパーティで装備を分担し、ワイワイと言いながらご飯を食べ、狭いテントで寝て自然を満喫することができ、しんどさが大きければ大きいほど達成感は大きくなり、山の魅力を存分に楽しめることは間違いありません。

是非、テントを担いで山に行きましょう！

巻頭言

コロナ禍での山行計画

尾越

例年の山行計画は3カ月毎に山行案を検討し、山行先及びリーダー、サブリーダーを決める。日帰り山行、泊り山行、里山からアルプスまで日本各地の山々の計画を、山だけではなくプラスアルファもあるバリエーションに富んだ山行計画を、会員の方々は大変楽しみにされてきたと思う。

自粛、ステイホームの言葉もそろそろ記憶の彼方になりそうな9月の山行計画員会では、来年1月から3月の山行を検討した。例年ならアルプスの山々を眺めるスノーシュー、樹氷で有名な金剛山、高見山、福寿草を探しに藤原岳の山行が計画案として出されるが、今回は近郊の山と六甲山の山行案がまとまった。スノーシューは12月の山行計画委員会まで持ち越しになった。9月に入っても相変わらず暑く、涼しい家の中にいると山歩きは堪えるが、山行の参加者は20人を超えるほど人気があり希望者は多い。密室ではないが、密接と密集に注意が必要だ。どこも自粛の出口をどう考えるかが難しい、どんなふうに広げていくか、泊り山行は、どうすれば安全に安心して行けるか。そしてこれからどのように山に行けばいいのか、自分自身とも向き合うきっかけにしてはどうか。

自身の山の行き方を考えるため、この機会に今までの山行を振り返って、楽しかったことや、頑張ったこと、山への行き方で大切にしていることを思い返すと、きっと自分の強みに気づき自信に繋がるでしょう。

思い出すのは、なぜか楽しい山行より苦勞をしたことの方が多い。雨の中、川のような登山道を歩き、下山後のお風呂では歩き終えた満足感と贅沢な気持ちに浸ったこと。皆さんにもきっとあると思います。それがあから山は止められない。その思いを共有できる仲間がいることも何より嬉しい。私は入会翌年に初めて六甲全山縦走に参加したこと、県連の初級クライミング教室と登山教室に参加したことが自身の強みになっていると思う。その都度、参加を迷っていると背中を押して下さる先輩がいて、指示ではなく支持であったことがやる気を起こした。そしてどれも一緒に参加して下さった仲間がいたこと。辛かったことも仲間がいると、楽しく思い出せる。

山の行き方を考えるとき、自身の体調と仕事、親の介護、孫のお守などの役割を考慮し、周りの助けを借りながら、自分の時間を大切に、山登りの楽しみを続けましょう。無理をせず、行ける範囲でいいと思う。

今回のコロナ禍を乗り切り、山登りを続けるためのモチベーションは仲間であることを改めて感じた。「出来るときに、出来ることを、出来る範囲で、出来るだけやりましょう」は有森裕子さんの言葉です。まさに、私の心にピッタリ！また新たな山行を新しい山登りスタイルで作って行きましょう。以前のようにバリエーションに富んだ山行計画を会員の方々に案内できるようにしたいと思う。

巻頭言

登ってみよう加西の山々

尾内

9月の巻頭言で瀧原さんから北播磨の山の魅力を教えていただきました。今回は、北播磨の中でも加西の山を紹介させていただきます。

加西の山といえば、加西アルプスと称される善防山（251m）・笠松山（244.4m）です。ここは、加西地区の土曜トレコースにもなっているので皆さんおなじみの山ですが、岩稜帯でアップダウンがあって両山共に頂上は展望が良く、どこか高御位山コースと似たところがあります。登山口も東西南北にたくさんあり鎖場や階段もあってバラエティに富んだ登山コースとなっています。善防山はかつて赤松則繁が城を築いていましたが、嘉吉（かきつ）の乱

（1441年）で落城、その時、山名の軍勢に取り囲まれましたが、城に残った善防方は岩肌を油を含んだ竹の皮を敷き詰め応戦しました。しかし、その竹の皮に火をつけられあっけなく落城してしまったと言われています。善防山と笠松山は吊橋で繋がっています。笠松山の頂上では、6月に、水田に映る北条鉄道を撮影しに来られていた方と出会いました。田園の中を走る北条鉄道を一緒に楽しみました。

赤松氏の居城といえば、また、北条の小谷（こだに）城跡（218m）があります。地元では、小学校の校歌に「強き心は城山の縦走にこそためすなれ」とうたわれている馴染み深い山です。北条鉄道を利用すれば、終点北条町駅で下車し、古くからの商家の町並みが残る街道（北条の宿）を歩いて北へ進み、途中で酒見寺、北条の節句で有名な住吉神社や五百羅漢などがあるので、街歩きを楽しみながら登山口へと向かうことができます。頂上からは加西市の市街地が一望でき、また、当時の城郭遺構がよく残っていてわかりやすくなっています。町歩きを含めて6km2時間程度で楽しめます。

次に加西の最高峰 鎌倉山（452.4m）は、加西地区の初めての山歩き教室の実技でも登る山です。明治時代に行者道が開かれ播磨の修験道の中心だったようです。名刹普光寺の手前の登山口から登って、大天井、小天井、鎌倉山、鎌倉寺に下山すれば約3時間30分のショートコース。河内町公民館に駐車して、標識に従って南に下がって、愛宕神社から山頂をへてさらに南へ河内城跡まで歩けば、登山道は不明瞭ですが約5時間のロングコースで縦走ができます。コース上にはたくさんの石仏があり、また、山頂は望遠鏡が設置してあるなど、360度のパノラマが楽しめます。

鎌倉山の東方には、愛宕山、宇仁山（254.6m）があります。大工町 普明寺の駐車場に車を停めて展望台、愛宕山に登って宇仁山を目指します。登山道は愛宕山までは、トイレが設置してあるなど地元の愛好家によりよく整備されていますが、そこから東の登山道は不明瞭です。うまくルートハンティングできれば紅葉が美しい奥山寺へと下山することができます。やぶ山の低山で、3時間程度で駐車場に戻ってくることができ、しかしなかなかスリルがあっておすすめのコースです。ただし、地図、コンパスは必携です。

加西の山も低山ですがまだまだいいところがいっぱいあります。是非一度加西にも足を運んで史跡名所を巡りながら加西の山の魅力を味わってみてください。

コロナ渦中、アルプスに行ける日を心待ちにしながら、トレーニングも兼ねて、里山歩きを楽しもうではありませんか。

（加西市ホームページ播磨国風土記の里～ハイキングマップ～ 参照）

巻頭言

新しい山の楽しみ方を模索

瀧原

コロナ禍の生活で、山へ行きたいのに行けないジレンマと皆さんはどう向き合っておられますか。私の住む北播磨は小1時間もかければ行ける山はいくつもあり、それらの山に親しんできました。近くの山にしか行けなくなったので「ふるさと兵庫 100 山」（神戸新聞社）という本を改めて読んでみたり、インターネット上の播磨の山歩き情報を見たりして、今までとは違う視点で山を眺めてみた。歴史と山、信仰と山、人々と山というようにテーマを持って訪れると何度も登った山でも又、新たな楽しみを見つけられるのではないかと思った。

まず、目に付いたのは金山(540m)。今年のNHKドラマ「麒麟が来る」で注目されている丹波を攻略した明智光秀が築城した金山城跡がある。波多野氏の八上城跡(高城山)、赤井氏の黒井城跡、二氏を攻め落とすためにその間に築いた金山城、ぜひ、その三山に行ってみよう。(R372 近くの八上城跡登山口には幟がはためきパンフが置いてあったが、コロナの影響か人影はなかった。)

次に西脇市の荘厳寺から白山～西光寺山～三草山～朝光寺へと修験の道があったそうだ。西光寺山には西光寺があった。三草山の源平合戦で負けた平氏は西光寺に逃げ、そのとき寺は焼かれ、その後再建されたが、松永久秀の攻撃によって焼失した。松永久秀の居城は信貴山上にあり、昨年、信貴山山行で訪れたところだ。あのときこんな史実に関心を持っていたらもっと違った目で居城跡を眺められただろう。少人数でゆっくりと昔に思いをはせながら登り、城跡でのんびりと過ごすのも楽しいと思う。

「播磨風土記」の大男のあまんじゃこ伝説がある山として千ヶ峰。そこには「雨乞い岩や塔の岩」があり、それに連なる笠形山には「天邪鬼の力水」、少し離れた妙見山には「あまんじゃこのおすれ石」が見られる。昔から山は人々との生活と密着していたことがうかがえ、これらを順に訪ねる山歩きもおもしろいのでは・・・。

又、山ではないが、登山時報8月号の伊籾二郎氏(雲の平山荘経営者)の記事で初めて知ったイギリス発祥の「フットパス」。森林や田園地帯、昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩く小径のことを言う。地域でこの小径を自分たちで見つけて歩くのもおもしろいかも知れない。例えば、加東市では闘竜灘～光明寺～播磨中央公園など、他にやしろの森も多彩な楽しみ方が出来るところだ。

ところで、今の時期、自粛が当たり前と思っていた私は、前述の伊籾氏の「・・・アウトドアレクリエーションの発想は基本的人権の問題である・(略)・・・アウトドアスポーツはフットパス運動などにおけるように自由に歩く権利を勝ち取ったもの。根底には自然は生活の基盤であり人々が自然の美を共有することが社会の持続性にとって不可欠なこと・(略)・・・」を読んで驚いた。当たり前のことをきちんと考えておくことも大事だと思った。

まだまだ続くであろうこの生活、萎縮してしまうことなく出来るところから自然を楽しみたい。そして、自分の体を健康に保ってコロナに罹らないようにくらししていきたいものですね。

巻頭言

登山装備アプリの活用

澤田(律)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い緊急事態宣言が出され、登山界の山岳4団体からも登山の自粛が呼びかけられた。高御位山遊会の会活動も4月から6月まで休止となった。7月以降、土曜トレーニングから徐々に再開となり今年は近郊の山へ行くことになっている。

私は高御位山遊会に入会し10年を過ぎたが登山できないという経験は初めてだった。良く会長が言われる「平和でないと登山はできない」という言葉を体験する事態となった。そんな中でも体力維持のため散歩や近くの山を個人で歩いたが、会の皆さんと登る登山は個人の登山では得られない、「はりあい」があるということを実感した。人と交流することは何と生きがいになっていたことか。

近年のIT化・情報化の影響で世の中は大変便利になり、登山用アプリでもその恩恵を授かっている。とはいいながらパソコンやスマホ音痴である私にはハードルは高い。それでも四苦八苦しなながら様々なアプリに挑戦することは楽しい。

私が使用しているアプリの一つ目は登山用GPSアプリのYAMAPやジオグラフィカを使用している。十分使いこなすにはほど遠いが①現在地の確認②予定ルートを事前に入力しておける③山行記録に必要な歩行距離・時間・場所・累積標高等活用の他、山行振り返りのツールになっている。

初めて登る山の場合、登山ルート上で現在地が分かるのは心強い。但し、その反面コンパス使用を殆どしなくなった。アプリを使用する功罪はあるように思う。コンパスを登山道の分岐では使用をするなど意識することも必要だろう。

GPSアプリは非常に役立つツールではあるけれど頼りすぎは禁物だともいわれている。また、アプリだけの問題ではなくスマホのGPS精度に問題があることもあるなど個人で解決できない問題もある。基本的には地図読み技術をあげることでコンパスが使えることは必須だろう。

二つ目は天気予報アプリである。気象庁の気象レーダーをインストールしている。4つの画面(地域・全国・衛星・天気図)の便利な機能だ。天気予報も10日間の予測が分かる。また、雨雲の位置・台風の位置等をリアルタイムで更新されており最新の情報が確認でき、天気を予想しての行動ができ心強い。

三つ目は花の名前を調べるアプリだ。アプリの種類は多いが私は「レンズ」と「高山植物がすぐわかる」2種類のアプリをインストールしている。山行が途絶えているので活用できていない。今は近所で花を調べる程度だがなかなか興味深い。

四つ目は星座表である。登山の楽しみの中に星座を見ることがある。バーチャルな星座を瞬時に表示してくれる。どこにどんな星座が見えるのかを分かりやすく教えてくれるので、星座に詳しい人はもちろん、星座について初心者でも、とっつきやすいアプリになっているというがまだ使用したことはない。夏山で広い空を見上げて体験したかったが、今年は山行がなくなわなかった。

以上が現在使用中や今後使用していきたいとスマホにインストールしているアプリである。今後も新規アプリの出現は留まることはないだろう。私たちが登山装備として活用できれば、安全登山の一助となり、さらに楽しみは増すことだろう。

巻頭言

いざ、藪山へ

佐々木

今年は、富士山への登山道が閉鎖だとか。八ヶ岳も入山禁止。多くの山小屋が営業休止とか。新型コロナウイルスによる肺炎は、人間側に耐性ができるまで何度かの感染流行の波が来るのではと思われます。

登山は、不要不急の趣味・遊びの類です。山に行きたしコロナは怖しですが、すし詰めの中小屋や、切れ目なく人の連なる山、“こんにちは”で疲れる山を避けて、この際、近場の藪山に足を向けてみませんか？ 雄大な山の景色は味わえませんが、それなりの面白さがあります。

登山口がわかりづらい、駐車場所がない、トイレがない・・・何よりも道標がない等々。山仕事の道や、笹に埋もれた道、人の踏み跡だけかケモノ道だけか判別し難い道など、道迷いし易そう、というか歩くのが難しそうに思える山ですが、藪山は探検です。探検ごっこかも？

インターネットで得られる地理院地図には、紙の2万5千図よりも低山の山道の情報が増えています。低山では、雑木林や植林帯で視界が得られなかったり、明確な目標物がなかったりで、地図が使いづらく、現在地の同定が難しい事もありますが、高圧線の鉄塔（下には巡視路がある）があったり、峠の跡でお地蔵さまがあったり、赤布がある等、結構何とかなるものです。そして、イザとなれば、携帯のGPSアプリが活躍します。これは頼りになる便利な道具ですが、最初からこれに頼ってしまうと面白くありません。伝家の宝刀とか力道山の空手チョップ同様、どうにもならなくなった時に出すのがよろしいようです。ただ、携帯の電池切れには注意が必要です。GPSも非常時の連絡も電池が頼りです。電池の切れた携帯は、恨めしいばかりで何の役にも立ちません。GPSの軌跡から自分の開拓した道を地図に書き加えるのも楽しみの一つでしょう。

藪山といっても通常の登山の基本の装備を持っていれば特別に必要なものはありません。手袋なども自分でイバラのとげなどを経験（学習）すれば自分なりの装備が決まってきます。過度の重装備にならぬように、自分の経験で装備を決めていくのが良いと思われます。地形によっては、普段、滅多に使わないシュリングや細引きの出番もあるかも知れません。

但し、藪山は単独行向きではありません。通る人も滅多に無いので、穴ぼこに落ちて誰も助けてくれません。また多人数でズロズロと長い列で登るのにも向いていません。落石の危険回避や、難所の通過などは、少人数（山にもよりますが4～6名位）が適しているようです。コロナを機会に、少人数のパーティでの藪山探検も面白いと思いませんか。

藪山に限らず、今は新しい生活様式ならぬ新しい山行様式を探してみるのに良い機会かもしれません。

巻頭言

「平和を願って」

島谷

新型コロナウイルス感染拡大の影響でオリンピックの開催が延期になりました。本来ならば今月下旬には聖火ランナーが兵庫県入りし、県内各地で大きなイベントが開催されるはずでした。高御位山遊会においても、リーダーが時間をかけて計画した山行が中止になり、例会や教室等の変更に残念な思いをしています。ウィルスの終息と来年のオリンピック開催を祈るばかりです。

さて、高御位山遊会のメンバーなら、前回の東京オリンピック大会を「この前のオリンピックは・・・」と話せる方も多いでしょう。私は記憶にあるのです。聖火ランナーが手柄山の南の道路を走り行く光景が、私の中ではモノクロで残っています。手元に写真があるわけではないけれど、手柄小学校区に住んでいたので、きっと連れて行ってもらったのは現実の出来事だったのです。私は当時4歳。現在86歳の母に聞くと「見に行った」とのこと。大人になってから手柄山の慰霊塔(*)の意味を知り、戦後の高度経済成長真っただ中で、そのそばを平和のランナーが走ってくれたことを、今の私は意義深く感じることができます。56年前に私が見た歓喜の中の人々の生活はアナログで、すべての事に丁寧な手作りの「手順」があり、生活も仕事も催事もその手順がいかに労力の多いものだったか想像に難くないです。何をするにも時間がかかり、もし「やり直す」必要があったときは、その手間はいかばかりだったことか。各家庭には電話・電子レンジ・全自動洗濯機はなく、お豆腐を買うのに家からお鉢や鍋を持参していた時代です。主婦の苦労も職業人たちの汗も、オリンピックを迎える喜びの前では小さなものだったのでしょうか。戦後20年たらずで東京オリンピック大会を成功させた人々に畏敬の念を禁じえません。

競技に人生を賭けた人達の頑張る姿には胸が熱くなります。また、日の丸が掲揚されたり、「君が代」を耳にする場面が増えることを私たちは望んでいます。日の丸・君が代には、人によって様々な考えや思いがあります。私は、大人になって以来、自分の中で一定の着地点をもってきました。それは、平和への思いです。私の祖父母は息子を戦地へ送り出し、母は、優しくかったその兄達を亡くしています。家族と離れたくなかった人々、悲しいのに泣くことを許されず過ごした人々がいたのです。斉唱する時は、その方々へ思いを致すことを自分の答えとしています。災害や悲しい事故・事件が後を絶たず「安全な日本」と言えなくなっています。それでも私たちは戦後75年目を平和に過ごし、山歩きを楽しんでいます。私たちに「今」を用意してくれた先人達を思い、それぞれが平和への願いを強くするオリンピック・パラリンピック大会であってほしいと思っています。

目に見えないウィルスの脅威に翻弄されていますが、平穏な日々に戻ることを切に願います。経済が安定し、あたりまえに通学・通勤できることがいかに幸せなことか、あらためて感じるこの頃です。

(*) 手柄山の慰霊塔：

「太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔」は、無宗教の慰霊塔。地中に突き立てた刀は不戦の誓いを表しています。太平洋戦争時に空爆などで被災した都市の犠牲者を追悼するために建立されました。毎年10月26日に太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式が開かれています。

巻頭言

会の歴史を考える

須増

今年2月に日本勤労者山岳連盟（労山）の全国総会が開催されました。事故件数の報告は別として、ここ数年言われ続けているのが、会員数と登山時報購読者の減少です。

私は、会員数の件は、昔（結成当初）と現在では、社会情勢が大きく変わってきたことが主要な原因だと考えています。現在は、女性の社会進出が進み、定年延長制度の導入など働き方も変わってきました。少子化になり国民の年金制度も悪化しています。遊び方も多様化して昔は冬に雪が多くスキーをする人も多かったが、今は、航空運賃も安くなったお陰で海外旅行する人なども大幅に増えています。しかし、こういう状況の中でも健康に暮らしたい人の割合は変わらない筈です。安定した会運営のためにも我々の仲間を増やしましょう。

《東北大学加齢医学研究所教授 瀧 靖之さん》のお話によれば、認知症の予防には外へ出ること。何をすることが脳に良いのか？の問いには、①運動②会話③知的好奇心・趣味・・・楽しいと思うと記憶力が更に高まるそうです。山歩きは、全てにマルです。

さて、全国連盟は1960年5月に創立してから今年60周年を迎えます。機関紙「兵庫労山」3・4月号でも紹介されていますが、6月に記念行事も予定されています。全国で一番早く結成された「勤労者山岳会（後の会名称：東京勤労者山岳会）」が、60周年を迎える訳です。結成後40～60年と歴史のある会は、世代交代が行われて相当数の会員が入れ替わっているでしょう。高御位山遊会でも入会10年未満の人が大半だと推測します。

★全国連盟より、労山理念学習で労山の必要性を全会員へ周知が必要と言われていた所以です。

さて、私が高御位山遊会に入会したのは、2007年8月？でした。今年で13年目になりますが、それ以前の7年半（会の歴史の約1/3）を知りません。同期には、内海さん、三木（勉）さん達がおられるだけです。入会した当時（9月8日付）の会員は47名でしたが、現在残っているメンバーは、計16名のみ（⇒2/3の人が退会された）。だから先輩のベテランの皆さんには辞めないで頑張ってくださいと思います。高齢化社会と言われますが、人間が年を取るのは当たり前で、高齢化と会員数の減少は、比例しないと思います。新しい人に入会して貰える努力を惜しまず、楽しい山行ができるように企画したいものです。

兵庫県連に於いても、今年〇〇周年を迎える会が多くあるようです。一番早く結成された「西宮山岳会」が、「西宮わかもの山岳会」から名称を変えて以来55年。「西宮明昭山の会」と「西神戸山の会」も、各々45周年。尼崎ハイキングクラブが40年などです。

「登山時報」の後ろの方に「会報えつらん室」というページがあり、全国の労山所属会の会報が紹介されてきました。2016年9月号に、一年遅れで高御位山遊会の15周年記念誌も取り上げられました。その記事の中で、県連の喜多会長から次のようなお祝いメッセージも紹介されていました。「この陰には、数知れないご苦勞を乗り越えてこられたと推察します。過ぎ去った15年をもう一度振り返ってその努力をかみしめ、次への5年、10年を展望してください」と。高御位山遊会は、2000年10月に結成されてから今年で20周年を迎えます。これまでの会の歴史を振り返りながら全員参加で、みんなで祝いたいと思います。

10月11日（日）は、今から予定を空けておきましょう！。

巻頭言

春告げ花

藤本

低くても深い山がある。手入れされた立派で硬い登山道よりも、獣しか通らないわずかな踏みあとを辿り自分の足音だけがカサカサと聞こえる静かな山を歩きたい。しかし、樹木が茂ってくもの巢の多い時期は避けたい。したがって、そんな山を歩くのはいつも冬枯れの寂しい山ばかり。冬の山は花のない裸木ばかりで殺風景なもの。

そんな寂しい里山を歩いていて一番に春を感じさせてくれるのが「アセビ」の花。2月になればちらほらと咲き始める。釣鐘型の可憐な花だ。白色が多いが、時々赤みがかかった花も見られる。ツツジの花が山をにぎわすまでの間、アセビが山を控えめに飾ってくれる。花が終わると赤い新芽が出てきて、これも非常に美しい。



アセビ(馬酔木)

こんなアセビのことをもっと知りたくなりました。

漢字では「馬酔木」と書きます。ツツジ科・アセビ属に分類される常緑性の低木です。葉や茎に含まれる有毒成分によって「足がしびれる」ことが変化して「アセビ」と名付けられました。

こんな強い植物なので外来種だと思いきや、実は日本原産であり、万葉集にアセビを題材とした和歌がいくつかあることから、千年以上前の奈良時代にはすでに存在していて人々の心を長い間なごませてきたのです。

★磯の上に生ふる馬酔木を手折らめど

見すべき君がありと言はなくに

大来皇女(おおくのひめみこ)

(磯のそばに生える馬酔木を手にとってみようと思うのだが、それを見せてやりたいあの弟がまだ生きていたら、誰も言ってくれないことだ。)

歌の作者である大来皇女は、天武天皇亡き後、草壁皇子と皇位継承を争うことになった大津皇子の姉。弟の大津皇子は学識、身体とも優れていたが、686年10月、草壁皇子に対する謀反の疑いをかけられ無念の刑死を遂げてしまう。可憐な花をつける馬酔木だが、皇位をめぐる骨肉の争いの結果、弟を奪われた姉女の心境が鮮烈に詠み込まれている。

アセビの高さは、普通1.5～2mと低いので、馬や牛などに葉を食われやすい。だから、毒をもつことによって動物から葉を守っているとされています。

有毒の葉を食べる凄技の虫もいる・・・蛾の仲間・ヒョウモンエダシャクは、アセビの葉を食べ、毒成分を体内に蓄積。この毒がわが身を鳥から守る防衛手段にしているという。

アセビは自然の殺虫剤として利用することもできるそう。花、茎、葉を適量きざんで煮出し汁を作り、霧吹きを使って吹き付けると効果があるとか。真偽のほどはわからない。

アセビの英名は「Japanese Andromeda(ジャパニーズ・アンドロメダ)」。アンドロメダとは、ギリシャ神話に登場するエチオピアの王女。神々の怒りを受けて岩にはりつけられていたところを英雄ペルセウスに救われた人物。このペルセウスとアンドロメダのエピソードに由来して、「犠牲」「献身」という花言葉がつけられました。

—参考：山口大学教授吉村誠 国文学講義資料「万葉集テキストデータ」

巻頭言

「ラストエンペラー」が与えた旅

垣内

友達と「ラストエンペラー」を見にいき中国の長い歴史に感動をした。見終わった後皇帝の座った玉座を見てみたいと二人は思い北京への旅行を決意する。初めての海外旅行となる私にはパスポートをとる必要がある。そして旅行社をさがしたが JTB を初めとしてどこもツアーは出てなかった。その訳は6月にあった天安門事件の影響で自粛していたのです。大阪の旅行社が1社だけ出していたので申し込んだ。11名の人数であった。夫婦で中学生の男の子を連れた家族があり、後の6名は旅慣れた人であった。行程は上海からバスと鉄路で途中観光しながら北京に着くというもので変わったコースではない。中華航空という飛行機で上海までいったがスチュワーデスの座る座席もありサービス時以外は座っていた。国家公務員だからと友は教えてくれた。マイクロバスの運転も怖くて人をクラクションで蹴散らすという感じでした。

上海の夜は旅慣れた人達と上海ジャズバンドを聞きにいった。日本人とみたバンドマンは私たちに聞き覚えのある曲を演奏してくれた。自粛で日本人旅行者がいなかったので歓迎されたのである。旅行者には兌換券というお金が渡されてホテルとか免税店で使える。国民は人民元を使用していたのでそこいらの店ではつかえない兌換券であった。

列車は柔座と堅座とがあり旅行者には前者が使えた。駅の前はいつ乗れるかわからない列車を待って大勢の人が荷物と座っていた。アクシデントがあったのは明の陵墓を見たあとアイスクリームを買って食べた中学生が下痢と嘔吐で病院へいきそれ以後なにも食べれなくなったことである。あんなに元気だったのに横になったままである。私たちも水には気をつけていた。青島ビールかペットボトルを買った。列車の中の食堂車での食事も驚いた。乗客の私たちの向こうでコックたちが食事を始め、食べた蟹の殻をそこいら中に吐き出すのです。あとの掃除はだれがするのか見ても気分が悪いので早々に引き上げました。

やっと北京に着きその自転車の洪水にくらくらしました。天安門広場を走る車は共産党の役員の車だけ、住民はすべて自転車のようです。それが今は自動車に変わったわけですからスモッグもおこり大気汚染にもなっているのです。当時は澄んだ青空のもと天安門にかかげられている毛沢東がくっきりでした。北京では写真に気をつけるよう言われたのでとりませんでした。天安門事件現場で手を合わせ心が落ち着きました。しっかりと見た玉座。映画のような感動はありませんでした。でも広い紫禁城は見応えがありました。添乗員がここの宝物は大半が蒋介石により台湾に持って行かれましたという。その後万里の長城、兵馬俑、始皇帝陵などすごい歴史遺産です。美術館で愛新覚羅溥儀のサイン入り墨絵を有り金はたいて買ったのは大失敗でした。ワンフーチンの市場では蛙、蛇、鶏など生きたまま売られていました。

初めての海外旅行の思い出は今も新鮮に残っております。空港で受け取った旅行用鞆はぼろぼろでした。その後台湾に持ち出された財宝は確と見に行きました。

巻頭言

高御位山遊会のみなさん、

明けましておめでとうございます。

砂川(延)

例年のことですが、「元旦のご来光登山 in 高御位山」が新年を迎えて高御位山遊会の山初めになります。ご来光を迎えて今年1年も事故の無い山歩きを祈念しておきます。

2020年を迎えて、又、今年は高御位山遊会の創立20周年を迎えます。既に実行委員会を立ち上げ10月11日(日)には20周年記念行事が予定されています。

この1年は、そういった意味でも夏山集中登山、海外トレなど含め、非常に意味深い年として登山計画も立案していくことが求められます。

2000年にスタートした高御位山遊会を振り返って感じることは、兵庫県で、この播磨の地で日本勤労者山岳連盟の加盟組織として100名に近い会員が20年目の山岳活動にかかわっていることが実に誇らしいです。

高御位山遊会は播磨全域から(一部神戸市も含む)の会員が会を構成しています。

将来の夢は、東播磨地区、北播磨地区、西播磨地区に、それぞれ会が構成でき播磨全域に労山が活動できるようになることです。ご存じのように高御位山遊会の名称は高御位山から借用しています。この高御位山の別称は「播磨富士」とも称されており播磨のシンボルであり、ほぼ、播磨全域から望むことができます。この象徴的な高御位山を会活動の主な活動拠点にして、全国の山、世界の山に足を延ばしてきています。

毎月の高御位例会では、会員で集会場所である「みどりの相談所研修室」がいっぱいになる状況が、ここ数年続いており、これ以上の会員が増えるかどうかと問われる状況になっており、考慮していかないとならないでしょう。

現在、土曜トレが月一回は平荘湖、善防、朝日山の三か所に分かれて、行われていますが、これは、ある意味、将来を見通して設定していることもあるのです。

又、「初めての山歩き教室」が18年は飾磨市民センター、19年は高砂・帆っつとセンターで行い、今年20年は善防公民館で受講生の募集を行う予定です。教室も三地域を一年ごとに回って開催してきているところです。

労山の趣意書には——「すべての国民は“人間らしく成長し、人間らしく生きる権利”を持っている。登山をはじめ文化・スポーツは、その権利の重要な構成部分である。国や自治体はその権利を保障する義務がある——と述べている。

そこまでする必要があるのかと云うことですが、自ら地域とのかかわりを強めて権利としての登山、自らの組織的な登山活動のできる場所の提供、労山活動の一環として登山者教育を通じて、会を設立し安全な登山活動が提供できるよう努力する必要が我々に求められているのではないのでしょうか。

この一念で20周年を迎えようではありませんか。